

讃岐国府跡を探る 10

今回の展示では、讃岐国府跡探索事業の中で特に成果の大きかった「開法寺東方地区」の発掘調査成果について、国府が設置される直前から国府が終末を迎える13世紀代までの流れをパネルで紹介するとともに、国府跡から出土した、龍の頭をかたどった金属製品や三彩陶器等約50点の遺物を展示しています。あわせて、讃岐国府に関連の深い周辺の遺跡も紹介しています。



「遺跡に触れてみよう～飯山町岸の上遺跡～」を行いました！

冬將軍も到来した12月8日、岸の上遺跡（丸亀市飯山町）で発掘体験を行いました。現場主任の説明の後、ベテラン作業員の手ほどきを受けながら道具を使って竪穴建物跡を掘り下げました。体験中、体験終了後も熱心に質問をする参加者や保護者の方々も多く、外は寒くてもなかなか熱い発掘体験でした。



発掘体験「遺跡に触れてみよう～飯山町岸の上遺跡～」

展示のお知らせ

テーマ展「讃岐国府跡を探る 10」

日時：平成31年1月4日（金）～5月14日（火）

9時～17時 ※土・日・祝は休館

場所：香川県埋蔵文化財センター第2展示室

観覧料：無料



香川県埋蔵文化財センター

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

tel.0877-48-2191 fax.0877-48-3249



一部通行止があります
詳しくはホームページをご覧ください

● 南海道を歩く！

＜讃岐国分寺跡から讃岐国府跡まで＞

讃岐

いにしえの

● 発掘調査だよ！「岸の上遺跡」

NO.100

発掘調査だより

岸の上遺跡 (丸亀市飯山町)

岸の上遺跡は、国道438号道路改築事業に伴い、平成25年度から断続的に発掘調査を行っています。これまでの調査では、古墳時代後期(約1,400年前)の竪穴建物や掘立柱建物、奈良・平安時代頃の掘立柱建物群などが見つかり、公的な施設である可能性が考えられます。

今年度の調査では、8世紀初め頃の掘立柱建物1棟と、古墳時代後期の竪穴建物8棟が見つかりました。竪穴建物はいずれも1辺5m前後の方形で、古い竪穴建物が埋没した後、近い場所で建物の向きを変えながら建て替えられています。過去の調査で、周辺にも多数の古墳時代後期の竪穴建物や掘立柱建物が確認されており、建物の方向の違いから3~4程度のグループに分けることができます。この建物の方向がそれぞれが建てられた時期の細かな違いを表していると考えられ、これらを検討することで、古墳時代後期の集落の構造やその移り変わりを明らかにできるのではないかと考えています。

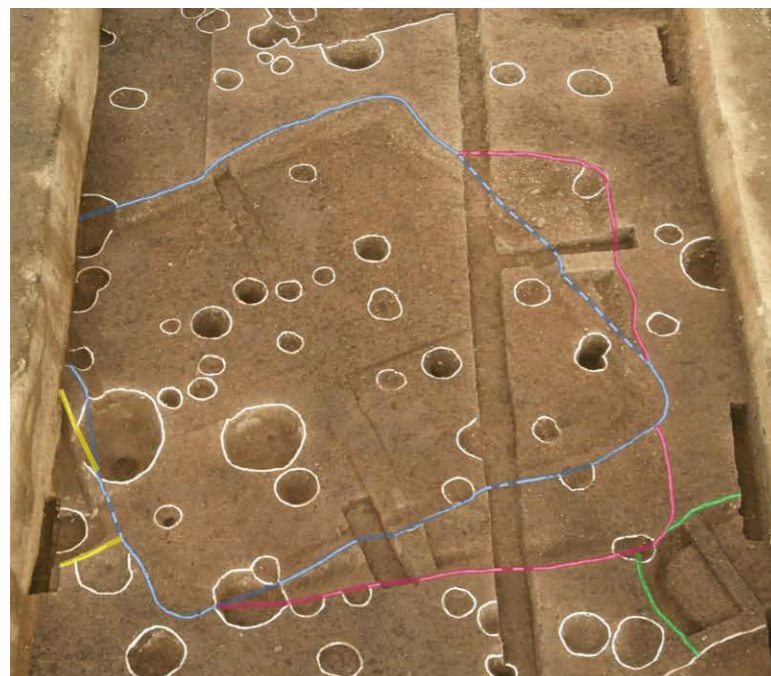


掘立柱建物(8世紀初め頃)
(赤線部分)

見つかった竪穴建物、掘立柱建物
(赤線部分が掘立柱建物)

竪穴建物の埋没後、8世紀初め頃の掘立柱建物が見つかりました。これまでに見つかった大型建物群と比べると、規模はやや小さく柱の並びが揃わないことから同時に建っていた建物ではないものの、南北方向を指向する点は共通していることや一般の建物より規模が大きいことから、公的施設の一部と考えられます。

岸の上遺跡は、古墳時代から古代にかけて地域の中で次第に拠点としての性格を強めていく様子が発掘調査でわかってきました。3月までの調査で、古墳時代の集落の具体的な姿や古代の公的施設が築かれる過程をより追求していきたいと思えます。



重複した4棟の竪穴建物



南海道を歩く!

〈讃岐国分寺跡から讃岐国府跡まで〉

—「まいぶんボランティア」による「南海道」をテーマとした他団体との交流事業—

平成21年度に開始した香川県埋蔵文化財センターの讃岐国府跡探索事業では、県民ボランティア(当時は通称「讃岐国府ミステリーハンター」。現在は「まいぶんボランティア」)によって古代南海道のルートを探検するという自主的かつ画期的な調査・研究活動が行われました。その成果については、平成29年に『讃岐の南海道を歩く』として発刊したところです。

私たちはこの成果を関係者だけに留めておくことは勿体ないと考え、県内各地の郷土史の研究団体と共有するとともに、一人でも多くの県民の方々に紹介するためにこの事業に着手することにしました。



第1回目は、去る1月27日(日)に讃岐国分寺跡から讃岐国府跡までの約5kmの区間において実施しました。まいぶんボランティアからは古田博子さんと坂下周市さんが参加し、地元の高松市讃岐国分寺跡資料館友の会の鎌田良博さんと柏原壮一さんに協力を仰ぎました。4名の熱いガイドのもと、23名の県民の方々が「大道」「道」「往還」などの地名をもとに推定した古代南海道の故地を歩きました。

この区間については、従来は坂出市と高松市国分寺町境の綾坂を通過するルート説が良く知られるところでしたが、今回はJR予讃線沿いの新しい推定地を紹介したことで、参加者からは「南海道は直線道路と思い込んでいた」「低地を通過することには疑問がある」「ぜひ全ルートを歩いてみたい」などの声を聴くことができました。この事業が香川県における南海道研究の新たな一歩になる雰囲気を感じることができました。

古代南海道の総延長は約100kmです。今回の経験を活かして、各地の団体や県民の方々と全ルートの踏破を目指したいと考えています。